

<対象製品番号はカタログなどでご確認ください>

施工店様へ

- この説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。
- 有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 施工完了後この説明書を取扱者様へお渡しください。

安全上のご注意 けがや事故防止のため、以下の点は必ず守ってください

警告

施工・点検時には必ず主電源を切る

～電源が入ったままの施工は感電の原因になります～

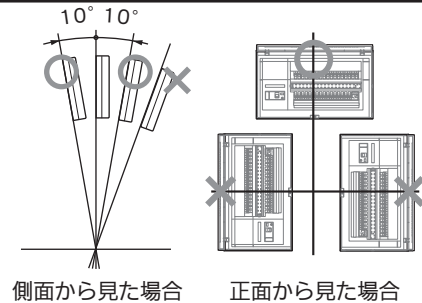
注意

- 端子ねじは適正締付トルクで確実に締め付ける
～端子ねじのゆるみは発熱・発火の原因になります～
- 電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込む
～差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因になります～
- 負荷側速結端子に接続する場合、オレンジ色の接続完了表示が出るまで、電線を奥まで確実に差し込む
～差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因になります～
- 負荷側速結端子への接続電線は、変形・腐食のないものを使用する
～守らないと、発熱・発火の原因になります～
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続する
～相を間違えると異常電圧が発生し、発熱・発火の原因になります～
- 主幹ブレーカの過電圧検出リード線は、中性バーから取り外さない
～取り外すと中性線欠相検出による過電圧保護ができません～



設置に関するご注意

- 住宅分電盤は、容易に操作・点検のできる場所に取り付けてください。戸棚・便所・浴室などの内部には取り付けしないでください。
- 高温・多湿・じんあい・腐食性ガス・振動・衝撃など、異常な環境での使用は避けてください。機能を損ないます。
- 屋内で使用してください。屋外や水のかかる場所には使用できません。
- 住宅分電盤を取り付ける壁面は、平らな面を選んでください。凸凹のある場所へ無理に取り付けしないでください。
- 住宅分電盤は、右図に示す範囲内で使用してください。(図は横形の場合を示す)
- 住宅分電盤の前面には、障害になるようなものを置かないでください。



施工に関するご注意

- この住宅分電盤は、単相3線式(1φ3W) 100/200V専用です。
- 盤定格電流を超える主幹ブレーカは取り付けしないでください。
- 導電部の接続ねじは、適正締付トルクで増締めを行ってください。
- 電線サイズは最大負荷電流に適合したものを使用してください。
- 主幹ブレーカ・分岐ブレーカに接続する電線サイズは右表より選んでください。
- 圧着端子・圧着工具はJISマーク品を使用してください。電線に適合した圧着端子を使用してください。
- 主幹ブレーカ2次側端子および接続部からの分岐配線は行わないでください。
- 主幹ブレーカの過電圧検出リード線は、中性バーから取り外さないでください。取り外すと中性線欠相検出による過電圧保護ができません。

主幹・分岐ブレーカ適合電線サイズ

ブレーカの定格電流	電線サイズ	
分岐	15A	φ1.6 φ2.0
	20A	φ1.6 φ2.0
	30A	φ2.6
主幹	30A	φ2.6 5.5~8.0mm ²
	40A	8.0~14.0mm ²
	50A・60A	14.0~22.0mm ²
	75A	22.0~38.0mm ²
100A	38.0mm ²	

使用上のご注意

- 線間電圧による感電は、漏電ブレーカで保護できません。
- 線間の絶縁抵抗測定は漏電ブレーカが故障します。
- 絶縁抵抗測定は下記の点に注意してください。
①主幹、分岐ブレーカはOFFにしてください。
②測定は充電部一大地間のみとしてください。

生産終了品

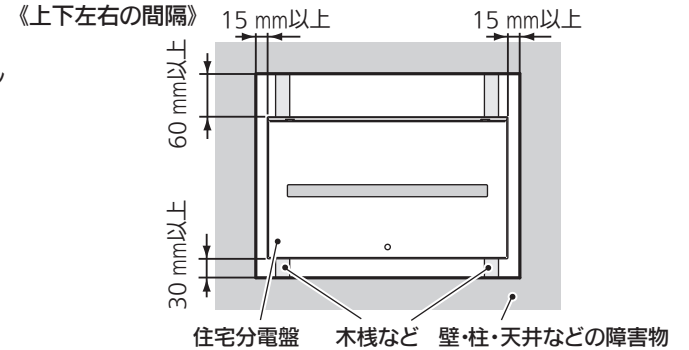
この商品は生産終了につき

- 製造することができません。同梱してある取扱説明書に、施工電気工事業者名(指定がある場合は連絡先)をご記入の後、お客様に取扱方法を説明し、取扱説明書とこの説明書をお渡しください。

お願い

住宅分電盤取り付け上のご注意

- 本体の取り付けは、天井面から約60mm(スッキリパネルは約15mm)以上、両側面から15mm以上、下側面から30mm以上の間隔を空けてください。(右図参照)
- ベースをネジで取り付ける際、取付穴以外でのネジ止めは避けてください。ベース変形の原因になります。



露出形

…スッキリパネル
ヨコー列タイプ

【露出取付け】

- 裏面配線時はベースの配線孔に合わせて壁に穴を開けてください。

露出・半埋込形

…コスモパネル
スッキリパネル
(露出・半埋込両用形)

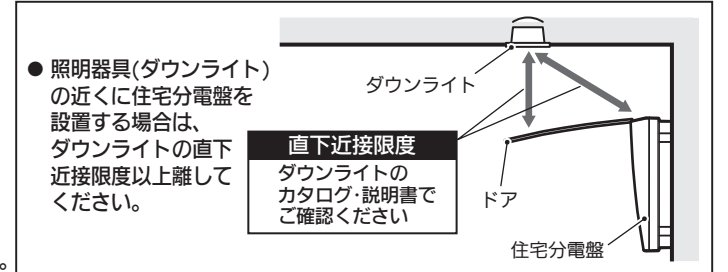
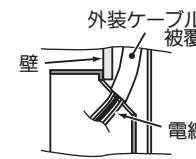
【露出取付け】

- 裏面配線時はボックスの配線孔に合わせて壁に穴を開けてください。
注) 気密性の高い住宅では壁内の気流により分電盤の通気孔からほこりが排出する場合がありますので「露出化粧枠」(下記参照)のご使用をお奨めします。

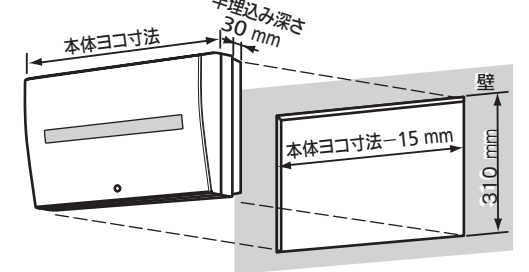
【半埋込取付け】

- 壁に半埋込用の穴を開けてください。(右図参照)
注) ベースの底面に合わせて穴を開けないでください。ベースの底面寸法と半埋込穴寸法は異なります。

- 上側面よりケーブルを引込む際、主幹用ケーブルが太い場合は引込みを容易にするため、右図のように外装ケーブル被覆をむいて電線にして入線してください。



《半埋込壁面加工寸法》



【化粧枠(別売)】

- 露出取付け時のベース外形の段差(半埋込しろ)を補正したい場合、別売の『露出化粧枠』をご使用ください。また半埋込時、穴開け寸法より大きな穴を開けた場合の壁面処理用(ただし、化粧枠外形寸法までに限る)に『半埋込化粧枠』をご使用ください。(品番はカタログなどでご確認ください)

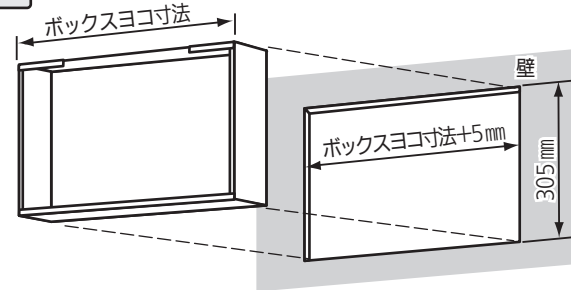
【石こうボード用取付はさみ金具(露出・半埋込取付兼用)(別売)】

- 別売の石こうボード用取付はさみ金具をご使用頂くと下地工事なしで石こうボード壁・新建材壁に直接簡単に取付けできます。
当社品番: BQS900(9~15mm壁用)
BQS901(16~25mm壁用)

埋込形

…コスモパネル(埋込形)

《壁面加工寸法》

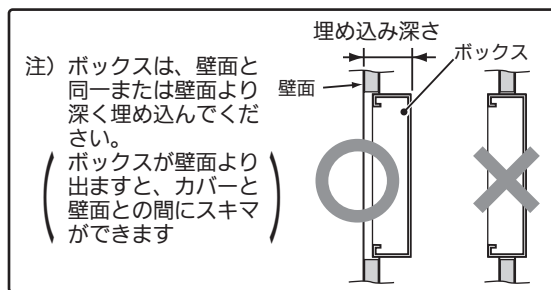


《埋め込み深さ》

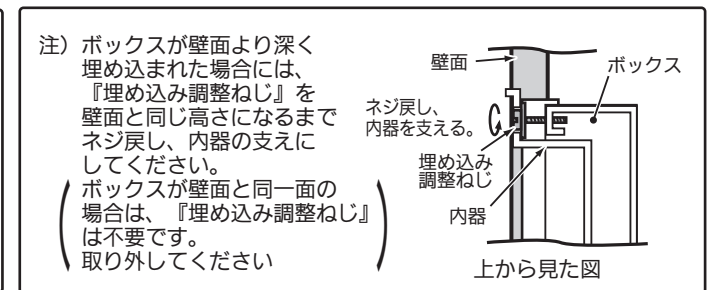
- リミッタースペース付
68~88mm
- リミッタースペースなし
50~70mm(ボックス深さ50mmタイプ)
55~75mm(ボックス深さ55mmタイプ)

接地に関するご注意

- 埋込形の場合、速結アース端子とボックスは電氣的に接続されていません。

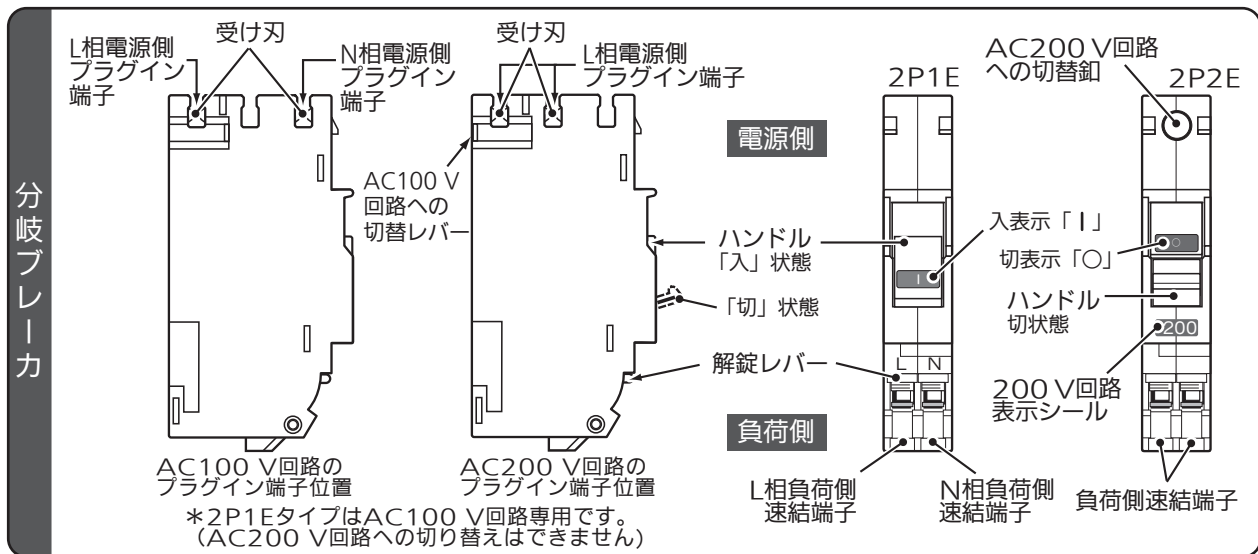
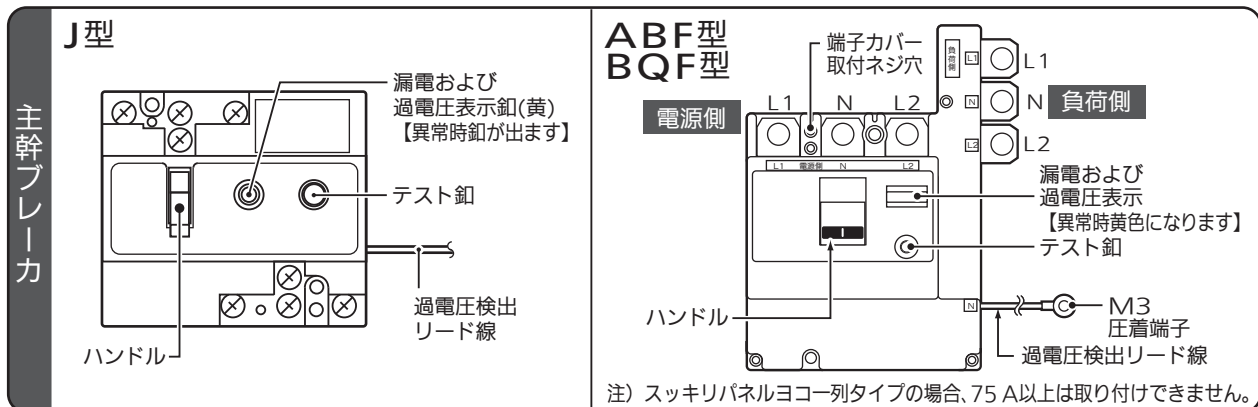


注) ボックスは、壁面と同一または壁面より深く埋め込んでください。
(ボックスが壁面より出ますと、カバーと壁面との間にスキマができます)



注) ボックスが壁面より深く埋め込まれた場合には、『埋め込み調整ねじ』を壁面と同じ高さになるまでネジ戻し、内器の支えにしてください。
(ボックスが壁面と同一面の場合には、『埋め込み調整ねじ』は不要です。取り外してください)

■各部のなまえ (ブレーカ)

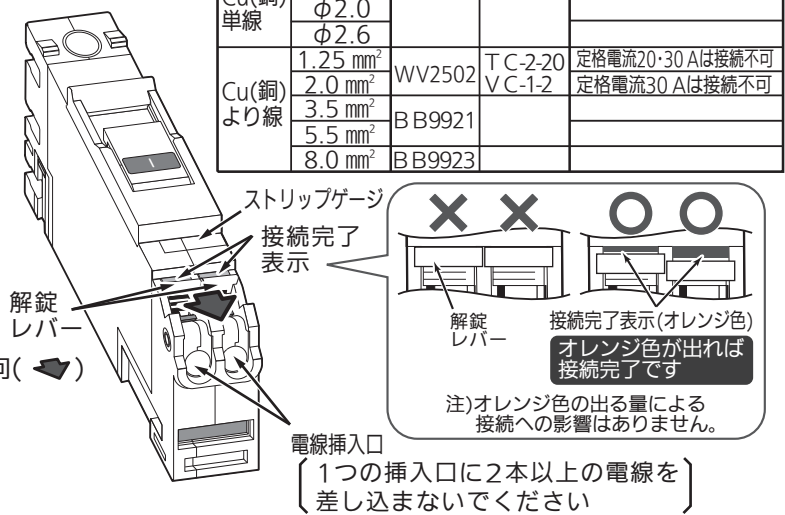


【分岐ブレーカ速結端子への電線接続について】 *Cu(銅)単線専用 (より線の場合は棒圧着端子使用) 【下表参照】

- 電線の被覆をむく。
〔本体のストリップゲージに電線を合わせ、15 mmむく〕
- 電線を差し込む。
〔電線挿入口から入れ、オレンジ色の接続完了表示が出るまで差し込む〕

注) ●電線の変形・腐食は、発熱・発火の原因になります。電線をむき直してから接続してください。
●オレンジ色の接続完了表示が出ない場合は、接続が不十分です。発熱・発火の原因になりますので電線のむき長さを確認の上、接続し直してください。

接続可能電線	適合棒圧着端子品番 (けいりゃく電工) ニチフ製	注意事項
Cu(銅)単線	φ1.6	定格電流30 Aは接続不可
	φ2.0	
	φ2.6	
Cu(銅)より線	1.25 mm ²	WV2502 T C-2-20 定格電流20・30 Aは接続不可
	2.0 mm ²	
	3.5 mm ²	V C-1-2 定格電流30 Aは接続不可
	5.5 mm ²	
	8.0 mm ²	



*電線を抜く場合は、解錠レバーを矢印方向(←)に押しながら電線を引いてください。
〔φ2.6および8.0 mm²電線は抜きにくい場合があります。そのときは本体を分電盤から取り外し、電線を抜いてください〕

注) 解錠レバーの操作力は約7 Nです。押し込み荷重が高すぎる(100 N以上)と破損にいたる場合があります。

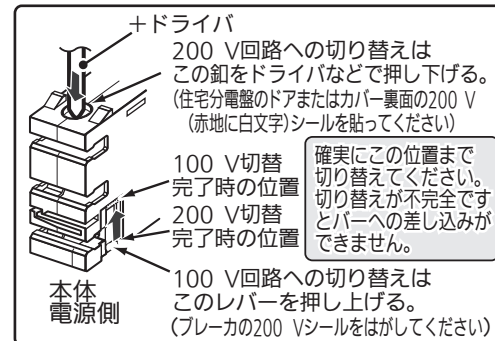
- 100 V回路の場合、分岐ブレーカ負荷側端子のL相とN相を正しく接続してください。

■分岐ブレーカの取り付け・取り外し

【取り付け前に (2P2Eタイプのみ)】

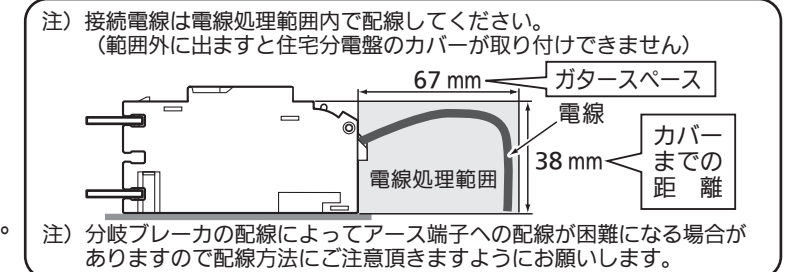
- プラグイン端子の受け刃の位置を確認してください。
〔負荷の使用電圧に合わせ、受け刃の位置を切り替えてください。住宅分電盤に取り付けた状態では切り替えできません〕

《切り替え方法》



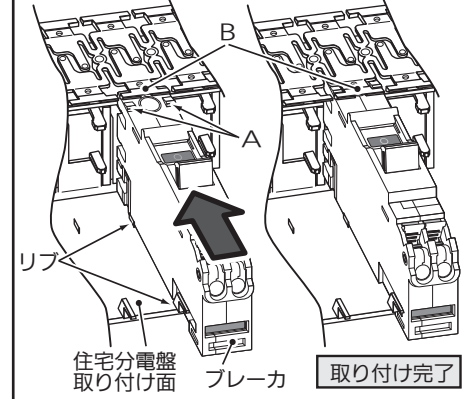
■アース端子への電線接続

- 速結アース端子への接続はアース線をストリップゲージに合わせ15 mmむき、奥まで確実に差し込んでください。
*接続電線：φ1.6・φ2.0・φ2.6 Cu(銅)単線専用
- 端子ねじへ接続する場合の接続電線は最大5.5 mm²です。(圧着端子を使用してください) 適正締付トルク 1.6~2.0 N・m
- アース線を抜く場合は、解錠穴へφ1.6~2.2の丸棒(精密ドライバー・単線電線のφ2.0など)を約6 mm挿入し、押しながらアース線を抜いてください。



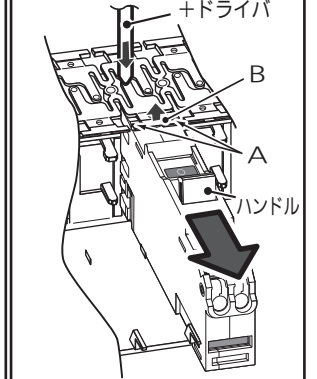
■取り付け

- 住宅分電盤取り付け面のリブにブレーカを合わせ、バーに対して水平に奥まで差し込んでください。
(B部がブレーカのA部を乗り越える) まで差し込む



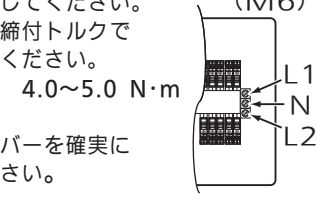
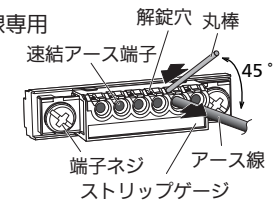
■取り外し

- 下図の位置を＋ドライバーで押し下げてください。(B部がブレーカのA部に乗り上げるまで押し込む) その状態でブレーカのハンドルに指を掛け、負荷側へ水平に引いて外します。



■送り端子への電線接続 (スッキリパネルヨコー列タイプ) (には送り端子はありません)

- 送り端子 (M6) への接続は、送り端子圧着端子を使用してください。
- 端子ネジは適正締付トルクで確実に接続してください。
- 適正締付トルク 4.0~5.0 N・m
- 接続後は保護カバーを確実に取り付けてください。



⚠ 注意

●以下の項目を厳守してください
~守らないと、火災のおそれがあります~

■接続上のご注意

【主幹ブレーカへの電線接続について】

《主幹ブレーカJ型》

- 端子は当金付構造です。電線(より線)の先端の半田上げや、パインドはしないでください。
- 複数の電線を接続しないでください。
- 接続電線のよりをほぐし、芯線をそろえてから電線の被ふくをかまないように接続してください。

《主幹ブレーカABF・BQF型》

- 端子は圧着端子専用です。適合圧着端子を使用し、接続してください。

定格電流	適合圧着端子
30A	8-6 (同梱)
40A~60A	14-6 (同梱) 22-6S
75A	CB22-6S (同梱) CB38-6N
100A	38-8S (同梱)

《共通項目》

- 端子ネジは適正締付トルクで確実に締付けてください。
〔接続不良は、発熱・発火の原因や中性線欠相事故による負荷機器の故障の原因になります〕
- 単相3線式の中性線を中極に、電圧線(200 V)を両端極に接続してください。(単相3線式専用です。単相2線式回路などには使用できません)
- 施工時、機器内部に異物(電線クズや壁材など)が入らないようにしてください。
- 施工完了後、端子カバーを確実に取り付けてください。
- 工事完了後、ハンドルを入「I」にしてからテスト釘を押して、動作の確認をしてください。

ブレーカタイプ	フレーム	ネジ径	適正締付トルクN・m
J型	30AF	M5	1.6~2.0
ABF型 BQF型	50AF・60AF・75AF	M6	4.0~5.0
	100AF	M8	5.0~7.0